

PRODUCED by 長唄のとびら

長唄・端唄の調べ



京都・四条烏丸に誕生した「わかさの舞台」へ。

長唄の名跡を受け継ぐ唄方・三味線方の至芸に、芸妓の舞端唄を添えて

江戸の「粋」と上方の「雅」が交わる、ひと夜かぎりの世界へと誘います。

※写真はイメージです。

出演



長唄（唄）
七代目
杵屋 和吉



三味線
五代目
杵屋 勝松



舞踊・端唄
先斗町 芸妓
市笑



舞踊・端唄
祇園東 芸妓
富多愛

2026年 9月22日(火)・23日(水)

時間

公演 開場 10:30 / 開演 11:00 / 終了 12:00
懇親会 開始 12:30 / 終了 14:00 (13:00 演者 席周り)

会場

WAKASA&CO. KYOTO 京都四条店 2階「わかさの舞台」
阪急「烏丸駅」・地下鉄「四条駅」20番出口より徒歩約3分

料金

観覧チケット 13,000円(税込) [各日40名様]
アフタヌーンティー付プレミアムチケット 18,000円(税込) [各日24名様]

ご予約・お問い合わせ



0570-06-7610

(受付時間 7:00~21:00)

Web予約



※こちらは7月時点でのメニューです。
当日は季節に合わせたメニューを提供させていただきます。

PRODUCED by 長唄のとびら

長唄・端唄の調べ

ごあいさつ

京都花街の魅力を、わかさの舞台上で

京都の花街は、数百年の歴史のなかで磨かれてきた、伝統伎芸と「おもてなし」の文化を今に伝える生きた文化遺産です。茶屋の座敷に響く唄や三味線、舞の所作には、京の四季のうつろいと人の情が織り込まれています。なかでも長唄は、江戸時代に歌舞伎舞踊の伴奏音楽として大成した、唄・三味線・囃子が一体となる華やかな音曲です。艶やかな三味線と小鼓や笛が生み出す「間」が、聴く人を江戸の「粋」と上方の「雅」が交わる世界へと誘います。

本公演では、重要無形文化財総合認定保持者である五代目 杵屋勝松氏（三味線）や、2022年に名跡を襲名した七代目 杵屋和吉氏（長唄）をはじめとする超一流の奏者が集結します。さらに、普段は一度に見ることが稀な「先斗町」と「祇園東」の芸妓による舞の競演で、お座席の風情をご体感いただけます。

舞台となる「わかさの舞台」は、最新のLED演出技術と伝統芸能が出会う、ほかにはない空間です。

各花街の歴史と特色に敬意を払い、芸舞妓・演者の皆様とともに磨き上げた、ひと夜かぎりの調べ。京都の伝統文化が新たに息づくこの舞台を、どうぞごゆるりとお楽しみください。

曲目解説

わしが在所 **端唄** 洛北・八瀬の大原女（おはらめ）が薪や炭を頭に載せ、京の町々を商い歩く、のどかな姿を唄った風情ある一曲。

わが恋 **端唄** 端唄を代表する恋の唄。短いながらしっとりとした情緒をたたえ、お座敷唄として長く親しまれてきた名曲。

木遣りくずし **端唄** 幕末の寄席で唄い始められたと伝わる。木材を運ぶ労働歌「木遣り唄」を座敷唄に崩した、江戸の粋を感じさせる曲。

秋の夜長 **端唄** 「秋の夜長に 主に逢う夜の 短さよ」と唄われる小品。長い秋の夜も愛しい人と過ごせばあつという間、という切ない恋心を映す。

春雨 **端唄** 端唄屈指の名曲。長崎の史跡料亭「花月」で生まれたとされ、しとしとと降る春の雨の情景に細やかな心情が美しく重なる名調子。

京の四季 **端唄** 東山や円山の四季の風物を詠み込んだお座敷遊びの定番曲。先斗町・祇園東の芸妓による華やかな舞とともにお届けします。

休憩

松の翁 **長唄** 明治期、三代目杵屋正次郎が駿河の富豪の別荘庭園に感嘆して作曲したと伝わる、荘重で格式高い長唄。七代目杵屋和吉襲名披露でも演奏された名曲。

出演

長唄（唄）

七代目 杵屋 和吉 — 長唄唄方の名跡

長唄一家に生まれ、人間国宝・東音宮田哲男に師事。2022年に七代目杵屋和吉を襲名。正統派の長唄唄方として高い支持を集める。

二代目 杵屋 禄三

端唄

鷺聲 真規

舞踊 / MC

市笑 先斗町 芸妓 / 富多愛 祇園東 芸妓 MC：杵屋 松梨

三味線

五代目 杵屋 勝松 — 重要無形文化財・長唄総合認定

8歳より三味線を始め、2005年に五代目杵屋勝松を襲名。坂東五三郎史の地方、市川團十郎史の立三味線を勤め、歌舞伎座・国立劇場等で活躍。江戸端唄鶯聲流を創立。

二代目 杵屋 禄宣

鳴り物

藤舎 清鷹 / 藤舎 成光 / 藤舎 伝生

長唄のとびら × わかさ生活「わかさの舞台」